

第209回aacaフォーラム：都市のダイナミズム 東京ダンジョン体験 ―遠山の金さんから大岡越前守へ―

開催日：2025年6月27日
説明及び案内：フォーラム委員会

フォーラム委員会

今回のフォーラムは、東京駅から繋がる地下歩行者ネットワークを散策する街歩きイベントです。テーマは「遠山の金さん(北町奉行所)から大岡越前守(南町奉行所)へ」。

東京駅丸の内南口前「KITTE(キッテ)丸の内」アトリウムに集まった参加者は総勢25名。雑踏の地下通路の移動中、一人も脱落者を出さずに、かつ要所要所での説明が参加者全員に伝わるようにインカムを着けていただきました。チャンネル合わせ・音量チェックなど準備を整え、さあ、出発です！



用意した散策マップ

上)東京バリアフリーマップ「大手町・丸の内・有楽町地下マップ」(NPO法人Live with Dream)と、慶應元年(1865)の丸の内周辺の古地図
下)現在の地上・地下の地図が同縮尺で掲載された地図

今回散策した地下レベルの歩行者通路は様々な来歴があります。JRや地下鉄の地下駅舎の線路やホームの上部につくられた通路、駅とビル、ビルとビルを地下でつないだ通路、八重洲のように最初から地下街としてつくられた通路、個別の単独ビルや大規模複合街区開発でビルの中につくられた通り抜け通路など。さまざまな来歴をもつ通路が、時代とともにネットワーク化され現在の姿に育ってきたとのことです。

旧国鉄本社跡に建てられた丸の内オアゾの貫通通路を通り、永代通り東西線通路から八重洲側へ。北町奉行所跡は…こんなところにあったのですね！跡地を示す石碑はビルに囲まれたポケットパーク内にあり、奉行所と町人街と

の境の堀は大通り(外堀通り)になっていました。



北町奉行所の跡地を示す石碑

その後、同じく堀跡の永代通りを大手町に戻り、新丸ビル内の通路から行幸通り地下広場へ。両側のギャラリースペースでは和傘のアートが展示され、農産物の市も出ていました。ここは、東京駅から皇居に向かう幅広の行幸通り下の広場です。もとは2層の都市計画地下駐車場であったものを地上の広場の環境整備とともに、地下1階部分を、圧迫感を感じさせない光庭や賑わい創出に寄与するギャラリーなどを設けた歩行者広場に改造したものだそうです。この辺りでやっとコースの半ば、ちょっと疲れましたがもうひと頑張りです。



東京駅周辺の地下街も描かれた丸の内絵巻イラストの前での解説

行幸通りから丸ビルの地下通路を通り東京駅前の地下広場に戻ってきました。丸ビル前から新丸ビル前にわたる東京駅前交通広場の地下は、今は広々とした空間になっていますが、以前は細い数本の地下通路しかなかったところを徹底的に土取りして広場化したものだったのですね。

ここから、武家屋敷街の中心であった

大名小路の地下、総武線の上部地下通路を歩いて馬場先通の地下、JR京葉線地下駅に向かいました。ここに直結するのは丹下健三設計の旧東京都庁の跡地に建てられた、ガラスホールが美しいラファエル・ヴィニオリ設計の東京国際フォーラム。光環境が画期的な気持ち良い通り抜け通路になっています。

有楽町線の通路を銀座方向へ、村野東吾設計の読売会館の脇を通っていると東京交通会館につながります。地階にはaaca会員も御用達のギャラリーが多数並んでいます。

そろそろ歩き疲れたし、喉がビールを欲しがっていると思っていると、有楽町再開発でできた有楽町イトシアの地下広場にたどり着きました。

エスカレーターを上り振り返ると駅前広場で南町奉行所跡のサインボックスを発見！1時間半に及ぶ探検ツアーのゴール地点です。

参加された皆さんは長時間の散策にもかかわらず晴れ晴れとした表情。楽しい解説を聞きながら懇親も図ることができたようです。歩くことで、頭の中に巨大な地下の骨格がイメージできるようになり、今まで断片的であったいくつかの場所の位置関係が整理できました。もうダンジョンや迷路ではありません。おまけに江戸時代の街との関係もよくわかり、友達に自慢できるようになりました。

楽しい街歩きの体験共有。皆さん、ご参加ありがとうございました。

(委員 柏尾栄)



南町奉行所跡にて